

論語教室だより

『寺子屋・こども論語塾』世話人会

第 32 号

2013 (平成25) 年10月19日 (土)

大好きな論語

千歳市立千歳小学校4年 池田 真帆

私が通うきっかけとなったのは、幼稚園から読んでいる、安岡定子先生の親子で楽しむ『こども論語塾』という本です。本屋に行った時に、ちらっと見たら、おもしろかったので買ってもらいました。

論語塾で一番好きなのは、素読です。なぜなら、初めて行った時、むずかしい漢字があって読むのは大変だし、見なれていない行書の字だし・・・で、慣れていませんでした。でも、だんだん慣れて、読めるようになり、楽しくなったからです。

私が好きな言葉は、北海道新聞の小学生新聞の通信員だよりに書かれた以外にもう二つあります。

一つは「子曰わく、君子は上達し、小人は下達す。(君子はより高いものを目指して向上するが、小人は程度の低いものを求めてよくないものを得てしまう)」です。

二つ目が「子曰わく、仁に里るを美と為す。扱ひて仁に処らすんば、焉んぞ知るを得ん。(仁の心を大切にすることが美しいのだ。自分で選んで仁から離れてしまつては、どうして知者といえるだろうか。)」です。なぜなら、一つ目の章句は、学校にも論語にも関係があるからです。二つ目は、二つとも仁や君子のことに関係しているからです。

この論語を大切にしたいです。

坐ぜんを初めてしたのは、この論語塾です。最初は、足がいたくなって、しびれたりしたけれど、今はもう、へっちゃらです。この坐ぜんで背すじがのびました。でも、まだまだです。なので、坐ぜんのこれからの目標は、ねこ背を直すことです。この目標に向ってがんばっていきたいです。

※ 11月、藤川 響君をお願いします。

【ちょっといい話コーナー】

今月の論語塾に、大石様親子(小1・3歳)が見学に来てくれます。温かく迎えて下さいね。

「聞く」と「聴く」とでは、どう違うのでしょうか

寺子屋・こども論語塾 主宰 新田 修

塾生みんなは、先生の話を真剣に聴いてくれていますか。それとも、何となく聞いている程度でしょうか。一般的に、聞くは「自然に聞く」ことを言い、聴くは「意識して聴く」ことを意味します。

英語では、聞くはhearで聴くはlistenを用います。

そこで、聴くについて少し考えて見ることにしましょう。

「聴」くの右側の文字は、「十と四と心」からできています。そのうちの「四」は「目」が横になったものだといいます。また、「聴」くの右側の文字は、「徳」という文字の右側にもありますが、徳の文字とほぼ同じ意味になるそうです。つまり、「聴」くという文字は「耳」と「十」と「目」と「心」から成り立っているのです。「十人の目と心で、じっと耳を傾けてきく」という解釈ができるそうです。

塾生みんなは、コミュニケーションの基本は何だと思えますか。それは「話すこと」ではなく、「聴くこと」から始めなければなりません。人の話に真剣に耳を傾けて聴くことが孔子先生のいう「徳」を持った人になるのだと思えます。

—注— 徳の文字の左側の「彳」は行人偏といい、「てき」と読む。